

令和5年度

学校関係者評価報告書

令和6年3月

筑波研究学園専門学校
学校関係者評価委員会

■令和5年度 学校関係者評価について

筑波研究学園専門学校では、平成20年度より自己点検・評価委員会を設置し、日頃の教育活動について自己点検・評価を実施してきました。また、平成25年度からは、企業及び業界団体や保護者、卒業生等で構成する学校関係者評価委員会を設置し、様々な立場を代表する委員の皆様から学校運営・教育活動実績報告書をもとにご議論いただき、本校の学校運営や教育活動に対して点検・評価していただいております。

以下、先般開催した学校関係者評価委員会の評価結果について報告します。

1. 実施日時・場所

令和6年2月26日(月) 14:00～15:45

筑波研究学園専門学校 6号館 大講義室

2. 実施方法

(1) 実施組織：学校関係者評価委員会

○委員長

野口 孝之 学校法人筑波研究学園 理事
筑波研究学園専門学校 学校長

○評価委員

俣野 祐介	学校法人 霞ヶ浦高等学校 進路指導部長	教育関係
仁衡 琢磨	一般社団法人茨城研究開発型企業交流協会 会長 ペンギンシステム株式会社代表取締役社長	業界団体 (地元企業)
大山 泰明	土浦商工会議所 総務課長 補佐	業界団体
石井 聖信	茨城県自動車整備振興会土浦支所 教育課 課長	業界団体
河野 正博	一般社団法人茨城県建築士事務所協会 副会長 株式会社 河野正博建築設計事務所代表取締役	業界団体 (地元企業)
坂 巻 操	筑波メディカルセンター病院 事務部外来一課課長	地元企業
倉田 和典	社会福祉法人えがお 理事 施設統括部長 兼 法人事務部長	地元企業
舘野 仁志	五籃会会長 (保護者会代表)	保護者
笠間 俊雄	輝峰同窓会会長 (卒業生代表)	卒業生

○学校関係

佐久 芳夫	学校法人筑波研究学園 理事長
松下 博充	学校法人筑波研究学園 専務理事
大森 淳子	学校法人筑波研究学園 理事 筑波研究学園専門学校 副校長
水越 武	筑波研究学園専門学校 ITものづくり学科 学科長
齋田 光幸	筑波研究学園専門学校 自動車整備工学科 学科長

原 智 樹	筑波研究学園専門学校 建築環境学科 学科長
宮本 晃太	筑波研究学園専門学校 医療情報学科 学科長
福田 翔平	筑波研究学園専門学校 こども未来学科 副学科長
大塚由利子	筑波研究学園専門学校 こども未来学科 副学科長
押手 美加	筑波研究学園専門学校 こども未来学科 副学科長
湯浅 敏弘	筑波研究学園専門学校 法人事務局 企画担当部長
日下部俊博	筑波研究学園専門学校 総務部 部長
岡田 地余	筑波研究学園専門学校 教務部 副部長
杉山由紀夫	筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 副部長
山口 朋彦	筑波研究学園専門学校 入学・学生支援部 次長

(2) 評価基準：文部科学省「専修学校における学校評価ガイドライン」に準拠

(3) 評価方法：令和5年度学校自己点検・評価報告書に対する学校関係者評価

3. 評価の項目

次の10項目について実施

- (1) 教育理念・目標
- (2) 学校運営
- (3) 教育活動
- (4) 学修成果
- (5) 学生支援
- (6) 教育環境
- (7) 学生の受け入れ募集
- (8) 財務
- (9) 法令等の遵守
- (10) 社会貢献・地域貢献

4. 評価項目に対する評価

(1) 各項目について、次の4段階を基準とし、小数点第一位で評価しています。

4：適切 3：ほぼ適切 2：やや不適切 1：不適切

(小数点表示は評価者の平均点を記載)

(2) 委員会で提出された意見や質疑、提案事項等を記載

5. その他

令和5年度 学校自己点検・評価を併せてご覧ください。

項目 1 教育理念・目標

評価：3.9

- ① 適切に理念が定められ、目標を不断に微調整しながら進んでいると評価する。
- ② 専門学生として、専門職の卵として、勉学のみならず、社会人としての素養を学科ごとに養成されていると思う。
- ③ 「専門分野における DX」授業の導入を高く評価する。保育現場でも保育 ICT が急速に進んでおり、TIST でも保育園システムと連携した授業が導入されたと伺っている。これらの社会ニーズを踏まえた職業教育こそが TIST の強み(教育理念)であることを学生や保護者、地域にも強く発信していただきたい。

項目 2 学校運営

評価：3.7

- ① 「情報システム化」について、汎用の学校システムを活用することで、通常の学校運営に加え行政対応までが可能となる。規模は違えども、保育園システムは、情報の専門家がいなくても要望を伝えることで全てが網羅される。
- ② 現在の社会では業務の効率化が必要とされている。教育においては相手が学生という生き物であるため、必ずしも効率化がよいとは言えないが、学校運営面では工夫して効率化を推進いただきたい。
- ③ 経営 5 カ年計画に沿って、毎年ほぼ達成されていると思う。

項目 3 教育活動

評価：3.7

- ① 授業アンケートばかりではないが、アンケート等は情報収集後の分析が重要である。個人へのフィードバックは即時行なわれているので改善されたと思う。
- ② 授業評価の実施は大変素晴らしいことだと思う。先生方自身の評価と学生の評価にギャップがある項目のチェックができるの良いのではないかと思う。
- ③ 情報系の学科は、他の学科のように実感を得にくい学習対象であることから、予習・復習意欲を生みづらい要因と思われる。そういった学科においては、学習の先にある就業により自身がどう生きられるか、どう社会に参加していけるか、貢献できるかのイメージを明確化することが何よりも重要と思う。
- ④ 習熟度別授業の導入は良い。
- ⑤ DX 授業も、実践的なものもあれば、基本的なものもあり、またそこから発展したものがあるので、バランス良く編成してほしい。
- ⑥ 時代変化に伴い、常に新しい教育内容を導入していく取り組みは素晴らしい。結果、成果が遅れて現れるものがあるので、良いと思った取り組みについては、検証を続けながら、

自信を持って続けていただきたい。

- ⑦ 教育を行いながら、自身も資格取得をされた教員に拍手を送りたい。教員の質向上を示すものである。自身の向上に努める教員は学生の範ともなる。

項目4 学修成果

評価：3.7

- ① 資格取得率は専門学校の最重要ポイントの一つと史料する。既に相当の工夫をされながら取り組まれていると認識・評価しており、引き続きの奮闘を期待したい。
- ② 習熟度授業による授業展開は学生にとってありがたい指導体制だと思う。一方で、自学自習できるよう指導することも重要と思う。
- ③ 専門学校としての永続的課題であると同時に時代を読み取り、今後も適切な指導を行っていただきたい。
- ④ カリキュラムの見直しにより改善している。今年度も就職率100%に期待する。
- ⑤ 就職先企業や卒業生へのアンケートでは、社会人としてのコミュニケーション力、プレゼン力など、知識や資格以外の部分も重要であったかと思う。そのような分野へも引き続き対応をお願いする。

項目5 学生支援

評価：3.8

- ① 必要な対策は講じている。高校では、キャリアセンターの有無に加えて、そこでどのようなことができるのかをオープンキャンパス等で確認するように促している。
- ② 学生や卒業生の支援体制についてよく整備されていると思う。専門学校では難しいと思うが、高校では生徒会、大学では大学自治会といった組織があり、これらが取りまとめを行って学校に要望する方法もある。
- ③ 学校施設の大規模改善・環境整備は生徒募集に大きな影響力を与えると思う。

項目6 教育環境

評価：3.8

- ① 実施可能な対応をされている状況と評価する。
- ② ラーニング・ラウンジを充実させることで、外部への発信を期待したい。
- ③ 連携企業等の確保については、まず卒業生の就職先等との関係を強化するが基本だと思う。つまり、先生方による卒業生就職先への訪問が必須と思われる。
- ④ 教育環境としては、安全を第一に考えたい。書棚等の固定など、特に地震が心配である。

項目7 学生の受け入れ募集

評価：3.9

- ① 実施可能な対応をされている状況と評価する。
- ② 卒業後、即戦力としての人材育成を期待されている。
- ③ 教育効果を正確に伝えるためには、口頭での説明だけでなく、高校生の視覚に訴える方法が効果的と思う。
- ④ ホームページが見やすくなっている。

項目8 財務

評価：3.8

- ① しっかりとした予算・収支計画ができており、適正な財務状況と確信する。

項目9 法令等の遵守

評価：4.0

- ① 適切に実施されていると思う。
- ② 自己評価で最も大切なことは自らの弱点を認めること、弱点を克服するための自ら学ぼうとする姿勢が改善に繋がるものとする。

項目10 社会貢献・地域貢献

評価：4.0

- ① いろいろな所で本校の学生がボランティア活動に参加しており、学校のイメージアップにも貢献していると思う。これらの活動的な学生を中心に学校施設を使った地域イベント(子どもから高齢者まで)を計画してみたい。